

2023 年度・総合研究所研究チーム中間報告書

研究代表者（所属・職名・氏名）

文学部・教授・服部正

① 研究課題 社会的処方手法による学生支援の実践的研究

② 研究期間 2023 年度～2024 年度

③ 研究メンバー

服部正（文学部人間科学科教授、美術史・芸術学）、阿部真大（文学部社会学科教授、社会学）、大澤香織（文学部人間科学科教授、臨床心理学）、高石恭子（文学部教授・学生相談室専任カウンセラー、臨床心理学）

④ 研究成果および実績の概要（1200～1600 字程度）

本研究は、大学への適応に困難を抱える学生に対する支援の手法について、近年医療分野や福祉分野で注目を集めている「社会的処方」の手法を応用し、実践的な検証と手法の開発を行うものであり、臨床心理学、社会学、芸術学の知見を融合させる学際的な試みとなる。

具体的には、文献調査、先進事例の調査、研究者・実践家を招いての研究会の開催などを通じて社会的処方に関するメンバーの知見を深めつつ、外部の研究者・実践家・関連機関との関係を構築するとともに、屋台カフェの実践を通じてこの活動の効果を検証するものである。

1 年目（2023 年度）の成果として、以下の通りの現地調査、研究会、雑談・屋台カフェの実践活動を行った。

視察等現地調査

ホームレスのダンス集団「新人 H ソケリッサ」主宰者・アオキ裕キ氏面談調査（横浜市）

新野保路医師による屋台を用いた「暮らしの相談」活動実地調査（南越前町）

シェア型コミュニティ図書館だいかい文庫視察と主宰者・守本陽一氏面談調査（豊岡市）

小杉湯とシェアスペース「小杉湯となり」視察（杉並区）

名古屋大学学生支援センター主催「夕方さんぽ」活動の実地調査・面談調査（名古屋市）

暮らしの保健室武蔵新城新拠の実地調査・面談調査（川崎市）

社会的処方 EXPO2024 in Kyoto 参加（京都市）

コミュニティカフェ EMANON、はじまりの美術館の実地調査・面談調査（福島県）

研究会（オンライン）

2023 年 10 月 16 日 守本陽一氏（だいかい文庫）＋研究会メンバー

2023年12月8日 稲本朱珠氏（roots 京丹後市未来チャレンジ交流センター）＋研究会メンバー

2024年1月17日 福島沙紀氏（一般社団法人プラスケア）＋研究会メンバー

公開研究会（対面）

2024年2月23日 山村幸則氏（美術家・大阪芸術大学）＋研究会メンバー

*長津結一郎氏（九州大学）によるUDトークの実演あり

雑談・屋台カフェ

2023年12月8日 スタッフ学生6名 参加者約45名

2024年1月15日 スタッフ学生4名 参加者約40名：名古屋大学学生支援センター視察

2024年2月23日＜公開研究会併催＞学生スタッフ3名、参加者約50名

現地視察と公開研究会では、地域の居場所作り、コミュニティ形成に関わる先進事例の実践を学び、ディスカッションを繰り返しながら、本研究の意義を確認する作業を行った。1年目の活動の集大成として、アーティストを招いて行った公開研究会には、約50名の参加者があり、この分野への関心の高さや私たちの活動への期待の大きさを実感する機会となった。この公開研究会をきっかけに、その後の実践活動に継続的に参加して下さっている方や、実践活動のSNSをフォローして下さった方もあった。

雑談・屋台カフェの実践活動では、たまたま通りがかって参加してくれた学生がラインで友人を呼びよせてくれたり、1回目の実践に参加してくれた学生が2回目以降も訪問してくれたりと、こちらの狙い通りに草の根のネットワークよる広がりが少しずつ実現していく様子を観察することができた。友人があまりできていないという地方出身の1年生の悩みをスタッフとして参加してくれた上級生が時間をかけて聞いていたり、経営学部の4年生が文学部の教員に就職活動や卒業後の進路について相談をもちかけてくれたりと、カフェを実践するたびに普段の関係性とは異なる間柄だからこそ成立する「立ち話」がいくつも成立しており、研究の目的が着実に達成されつつあることを実感できる場面に多く遭遇している。

⑤ 今後の研究推進方策（継続の場合）

今年度も引き続き、オンラインによる研究会、雑談・屋台カフェの実践活動を行う。研究会は3回を予定し、雑談・屋台カフェの実践活動は月1回程度のペースで進めていく。ポートアイランドキャンパスでの実践や、学外のアートイベントへの参加など、活動範囲を拡張する試みも行う。後半には総括的な公開シンポジウムも開催する。さらに、この活動を他の教育機関が応用して展開できるようにするため、活動内容と研究成果をまとめた報告冊子を発行する。

⑥ 研究発表

- ・研究費を使用して開催した研究集会 上記④の研究会、公開研究会の項目を参照
- ・本研究に関連して実施した共同研究の実施状況 なし

⑦ 研究成果による産業財産権の出願・取得状況 なし

⑧ 予定している研究成果の公開方法（研究叢書の公刊、学術雑誌投稿など）

Instagramで実践活動の情報発信中

https://www.instagram.com/zatsudan.cafe_konan

高石恭子「社会的処方観点から見た学生相談の可能性」『甲南大学学生相談室紀要』

31巻、pp. 52-65, 2024年2月

2025年3月に研究報告書を発行予定